

都市部における交通結節点を核とした基盤整備による持続可能なまちづくりの推進

群馬県の現状

群馬県は、自動車への依存度が非常に高くなっており、主要都市周辺の幹線道路では、朝・夕の交通混雑のため、交通結節点などへのアクセス性が低下している状況である。また、歩道未整備箇所が多いため、歩行者の安全性を確保する必要がある。

県民の声

- ・交差点付近では朝夕混雑するため、渋滞を緩和させて欲しい。
- ・歩行者や自転車が安全に通行できなくて危険。

課題

慢性的な渋滞が発生している未整備箇所について、交通の円滑化を図る道路整備や歩行者が安全に通行できる歩道整備を推進する必要がある。

目的

交通結節点である鉄道駅やインターチェンジへのアクセス強化や、市役所や役場、公園、総合病院など、都市機能を担う施設周辺の歩道を整備し、市街地の回遊性を向上させ、これからも持続可能な魅力あるまちづくりを行う。

事業の指標

指標①：道路整備により、アクセス性が向上したインターチェンジや鉄道駅の箇所数

Σ(アクセス性が向上したインターチェンジや鉄道駅の箇所数)
(単位:箇所)

指標②：市街地内の都市機能を担う施設周辺に、新たに整備された歩道延長

Σ(歩道整備が実施された道路延長) (単位:km)

成果と達成度報告

指標①：道路整備により、アクセス性が向上したインターチェンジや鉄道駅の箇所数

現況：0箇所(H27) ⇒ 最終目標：2箇所(R元)
⇒ 最終実績：2箇所(R元)

・道路整備により、アクセス性が向上したインターチェンジや鉄道駅の箇所数は、最終目標を達成した。

指標②：市街地内の都市機能を担う施設周辺に、新たに整備された歩道延長

現況：0m(H27) ⇒ 最終目標：3.66km(R元)
⇒ 最終実績：3.66km(R元)

・歩道の整備延長は、最終目標を達成し、安全性の向上が図れた。

今後の方針

・アクセス性が向上したインターチェンジや鉄道駅の箇所数や歩道が整備された道路延長は、令和元年度末に本計画における最終目標を達成した。

・引き続き、「都市部におけるストック効果を高める基盤整備による持続可能なまちづくりの推進計画」において、周辺幹線道路の整備を行い、鉄道駅やインターチェンジへの利便性・安全性を向上させ、地域の活力を生み出す都市環境の整備された持続可能なまちづくりを実施する。

都市部における交通結節点を核とした基盤整備による持続可能なまちづくりの推進

整備効果事例

事例①（都）西部一号線

■位置図



箇所名：
館林市岡野町



■整備効果

整備前



館林市は、近隣都市との連携を図る中で通過交通が著しく増大しており、特に市街地における渋滞緩和が急務となっていた

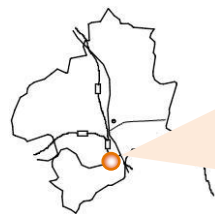
整備後



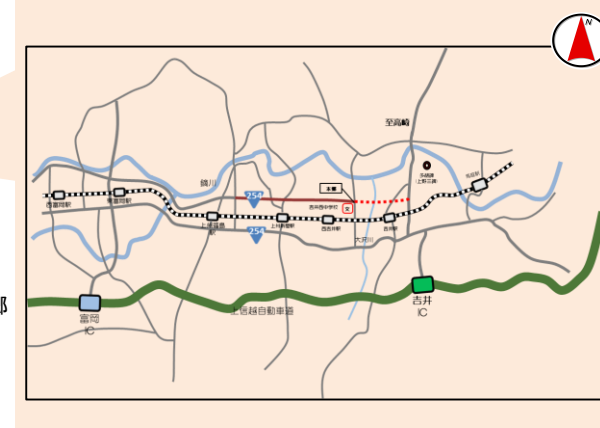
東武佐野線との交差点をアンダーパス（立立交差）にすることにより、中心市街地の渋滞緩和や移動時間短縮による利便性向上を図ることができた。

事例②（都）吉井北通り線

■位置図



箇所名：
高崎市吉井町池～吉井町本郷



■整備効果

整備前



朝夕の通勤時間帯における慢性的な交通渋滞があった。

整備後



周辺道路の交通がバイパスに転換し、富岡市中心部から高崎市吉井町間の移動時間の短縮などの効果が現れた。